

事業のタネシート

活動地域・団体名：余市観光地域づくり協議会

事業名称 1：地域の資源と課題を活用した「SDGs研修」事業

あらすじ

地域の資源や課題を素材にSDGsを実践的に学ぶ教育旅行や企業研修を商品化する。

ストーリー

一次産業や自然環境の魅力と課題を素材に、SDGsをリアルに捉える機会として提供する。外部から訪れる人との学びを通じて地域住民の意識が醸成されると同時に、受け入れを通じて、地域の自然環境が改善されたり、地産地消が進んだり、地域内で経済的な循環が生まれるようになり、地域のSDGs、持続可能性の向上が推進されることをねらいとしている。

事業の骨子

現時点で想定される 課題・ボトルネック

①ありたい未来	研修・教育旅行の受け入れにより、経済が活性化するとともに、外部との交流により地域住民の持続可能性に対する意識が高まり、SDGs（海や森の環境改善、協働のものづくり、教育など）が推進される。	大規模旅行のノウハウがない。キャパシティオーバーにならないように、情報の整理や受け入れの仕組みが必要。 異業種との分担や広域連携など体制づくりが肝要。
②課題	低所得。 地域内のつながり、連携不足	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域資源を活かした交流事業を通して町内の事業者の所得が向上する。地域内外の多様なセクターが協働することで課題の共有や取組体制が構築される。	
④地域資源	農業（果樹栽培）、漁業、ワイナリー、海山の食資源、環境、教育などのNPO	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	修学旅行生（中高校生）を対象とした教育旅行 宿泊を伴う企業研修ツアー	
⑥担い手（Who）	地域の生産者、飲食店、環境・教育のNPO、社会教育系専門家（学芸員）、フリーガイド、旅行業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	生産者への謝金、地域内外の移動交通、NPOの企画コーディネートやガイド・ファシリテーターへの謝金、視察や会議の施設利用料など、これまで外部から購入していた弁当を地元産の食材で地域で生産するようになる。	・教材の開発や制作にかかるプロ ・旅行業者との役割分担、または広域連携で大規模を分散させる。 (ニセコや小樽の観光業、ガイド)
⑧事業で生じる成果	プログラム参加者とともに、地域住民の意識や行動が変容する。地域内で人材が育つとともに、外部の人材や専門家とのネットワークができる。	

事業名称 2 : 地域のアイデンティティ、シビックプライドの醸成を図る「よいち地元学」事業		
あらすじ		
地域の資源や課題を地域住民が深く理解し、地域への誇りをもつとともに地元ネットワークを強化する		
ストーリー		
地域住民が子どもの頃から地域のもを食べたり、その歴史に触れたりすることで、地域への誇りや愛着が増し、地域づくりに関わろうという人が増える。また、地域のアイデンティティが醸成され、住民自ら自然を保全したり、外部の人たちに地域のよさを伝えようとする意識が育つ。また、そのプロセスで地域の生産者や新規移住者の交流や有機的なネットワークが育まれる		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	住民、来訪者双方による環境保全に配慮したまち（産業・観光）がうまれる	地域住民への情報提供、財源の確保 イベントに参加する人はいても運営への参加はハードルが高い。話し合いのトレーニングや自分たちの希望を自分たちで実現できるという練習が必要（ファシリテーション研修で一部補完）。 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
②課題	地域内のつながり、連携不足、資金不足、社会教育や福祉行政との連携が不可欠	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域住民が地域への理解や愛着を深め、自らその魅力を発信したり、訪問者へのホスピタリティを高めることで、サステナブルな観光へとつながる	
④地域資源	シリバ山、ニシン漁業、リンゴ、海山の食資源、縄文や開拓の歴史、ワイン産業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	シリバ山の調査や整備、緋の衣を保全・商品開発、地域向け地元学の勉強会、食育勉強会、学校給食の改善	
⑥担い手（Who）	地域の生産者や加工所。学校、幼稚園、児童館や子ども劇場など子どもや教育に関するグループ。コミュニティレストラン。社会教育の専門家	
⑦事業で生じる循環	これまで地域外から購入していた食材や加工品を地域で購入するようになる	
⑧事業で生じる成果	リンゴやニシンなどの伝統的な食をはじめ、地域の食文化をともに学びあう中で、生産者と地域消費者のつながりが生まれるとともに、それらを外に発信するようなイベントやツールが開発される	

事業名称 3 : 援農ボランティア等を含む「一次産業の担い手支援」事業

あらすじ

農業バイトや技能実習生などの生活環境を整えたり、交流の機会を提供することで、関係人口を増やしながら農業人材の問題を解決する

ストーリー

農業の担い手が不足する中、外国からの技能実習生や季節労働のアルバイト、援農の学生たちのニーズが高まっている。そのような人材を一過性の労働者として受け入れるのではなく、二地域拠点や継続的リピーターとして町づくりの担い手になるように生活環境や交流の場を整えていく。さらに、その人たちが移住したり、起業したりできるように、住宅や子育て、仕事などの情報提供などを行う。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	都市住民が地域活動に参加したり、定住につながる町	<ul style="list-style-type: none"> ・一次産業における労働需要が季節限定で収入が不安定。 ・求人や交流の情報がない。 ・手ごろな住まいがない。 ・家賃やリフォームのための財源的支援が必要。 ・空き地や空き家の情報がない ・ボランティアやアルバイトなど外部人材に地域をPRし、将来的に定着してもらえるように、受入側の心構えや環境づくりが必要
②課題	果樹栽培等、第一次産業が抱える特有の課題として、季節労働による労働者人口の不足、低所得。地域全体では、援農ボランティアの受け入れの仕組みが弱い。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域内外の人材プラットフォームが構築されるとともに、農家の慢性的な労働者不足が解決される	
④地域資源	農業、漁業、ワイナリー	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	労働者と生産者のマッチングとサポートシステム 外国人労働者や援農学生らの交流や情報支援 空き家や公的施設(町内会館や廃校になった校舎など)をゲストハウスやシェアオフィスにリフォームし、安価な住宅やコミュニティの場として提供する	
⑥担い手 (Who)	生産者、観光業、空き家をはじめ不動産の持ち主、ゲストハウスや下宿を運営する事業者、NPO、役場	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	リフォーム工事、労働者の家賃、生活費、農業や漁業の所得向上	不動産に関する情報。 農協や役場、商工会議所など公的な機関。
⑧事業で生じる成果	繁忙期の農作業を担う人材が定期的に通ってくれるようになり、農業が安定する。その人たちが地域のよさを知ること、主体的に活動したり、テレワークを活用して二地域居住や移住につながる	テレワークを推進したい企業。 コーディネーターの確保